

## 第2学年 英語科学習指導案

日時 令和2年1月31日（金）第5校時

### 1 単元名 Lesson 8 Manga, Anime and Movies (TOTAL ENGLISH 2)

#### 2 単元について

##### (1) 単元観

本単元では同等比較 (as～as)、副詞の比較級と最上級、接続詞 if・because が導入される。文の構造が複雑になってくるが、自己表現の幅が更に広がる表現でもあるので、言語活動を通して慣れ親しませ、活用できるようにさせる。本課の話題は日本のマンガ・アニメ・映画である。生徒達にとって身近な日本文化が世界に影響を与えていることを伝え、異文化への理解も深めていきたい。

##### (2) 生徒観

ほぼ全ての生徒が教師の指示に従って活動している。単語学習や会話活動では間違いを恐れず声を出し、習得に向けて努力する姿が多く見られる。ペア活動やグループ活動にも協力して取り組んでいる。英語への苦手意識を持つ生徒も大勢いるが、教師の支援や仲間との関わりを増やすことで意欲を引き出すことを心がけている。

##### (3) 指導観

1 単位時間の授業を数種類の活動で組み立てることにより、少なくとも1つ以上の活動に全員が意欲的に取り組むことができるように工夫している。毎時間、生徒達が小さな成功体験を積み重ね、達成感を得られるように、常に激励し支援していく。

来年度から全面実施される中学校学習指導要領では、英語は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5領域になる。英語を使うことができる日本人の育成が急務であることから、話すことに関して、「やり取り」と「発表」の2つに分かれたのである。いずれも指導目標は共通して以下3つである。

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

アに、「即興で伝え合うことができるようにする」とある。第一に、その場で瞬時に英語でやり取りができる能力が求められているのである。

「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。

現時点の研究では、即興性を身に付けさせる指導法として、向山浩子氏が開発された TOSS 型英会話指導法が非常に有効であると感じている。「読ませず、書かせず、訳させず」を理念とし、状況設定を工夫し、日本語を介さずにダイアログの意味を理解させる指導法である。文字を介さず、実際にそのダイアログが使用される場面や状況を設定し、リズムとテンポよく楽しみながら、短い時間でダイアログを定着させることができるすぐれた実践が多くある。

生徒が中学1年生の時から、北海道公立中学校教諭の加藤心氏や愛知県公立小学校教諭の井戸砂織氏が開発・作成した資料を活用し、継続して英会話活動を行ってきた。複数のダイアログを組み合わせることによって、6文、8文、10文・・・と長い会話ができるようになった。また、スポーツや音楽、食べ物、日常生活など話題も増え、自己表現の幅が広がった。英語への苦手意識を持つ生徒も、英会話活動には仲間とともに前向きに取り組んでいる。何度も繰り返し口頭練習を行うことによって、間を空けずに心地よいリズムで会話を楽しむことができている。

本時では、加藤心氏が作成した授業コンテンツを一部修正したものを活用し、やり取りの練習をする。自分の意見や考えをまとめて伝えたり、質問や意見に対応したりして、円滑なコミュニケーションになるように、指導を細分化し、スモールステップで授業を組み立てていく。

### 3 単元の目標（評価基準）

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
① as～as を用いた言語活動に意欲的に取り組む。 ② 副詞の比較級と最上級を用いた言語活動に意欲的に取り組む。 ③ 接続詞 if・because を用いた言語活動に意欲的に取り組む。	① 「同じくらい～です」と言ったり、尋ねたり、書いたりすることができる。 ② 「・・・よりもっと～です」「最も～です」と言ったり、尋ねたり、書いたりすることができる。 ③ 「もし～が・・・ならば」「～が・・・なので」と言ったり、尋ねたり、書いたりすることができる。 ④ 比較表現や接続詞を用いて、まとまった内容の英文を言ったり、書いたりすることができる。	① 「同じくらい～です」と聞いたり、読んだりして、理解することができる。 ② 「・・・よりもっと～です」「最も～です」と聞いたり、読んだりして、理解することができる。 ③ 「もし～が・・・ならば」「～が・・・なので」と聞いたり、読んだりして、理解することができる。 ④ まとまった内容の英文から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりすることができる。	① as～as の用法・文構造を理解することができる。 ② 副詞の比較級と最上級の用法・文構造を理解することができる。 ③ 接続詞 if・because の用法・文構造を理解することができる。

#### 4 研究主題との関連

「自ら学び自ら考える生徒の育成」～聞く力、伝える力の育成を目指して～（3年次）  
 本校英語科では研究主題を踏まえ、以下の4点の手立てを設定した。①インプット活動を通して多様な表現を身に付ける、②自己表現(アウトプット活動)の機会を増やす、③メモ(要点をまとめたり、伝えるためのメモ)を取る習慣をつける、④振り返りを活用する、ことである。具体的には、①ワークシートの活用(文法や単語のインプット)、語彙テスト、基本文テスト、会話ペア学習、様々な音読活動など、②ALTによるコミュニケーションテストやインタビュー、自己紹介文や日記作成など、③教科書の本文内容活動でのメモ(5W1Hを意識しながらのメモ)、グループ活動等で生徒同士の学び合い活動など、④毎時、あるいは単元ごとに振り返りをして、次の課題を見付けさせることなどである。

本時では、インプットからアウトプットにつなげる活動がメインとなる。相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、やり取りを繰り返し、会話を継続することができるようにしたい。

#### 5 単元の指導計画

時間	ねらい	評価方法
1	(1) 対話活動 (2) 同等比較 (as～as) を用いた文の構造を理解する。 ①同等表現 (as～as) の表現の仕方を知る。 ②同等比較 (as～as) を用いた文を使えるように練習する。	後日ペーパーテスト 活動の観察
2	(1) 対話活動 (2) 副詞の比較級や最上級を用いた文の構造を理解する。 ①副詞の比較級や最上級を用いた文の構造を知る。 ②副詞の比較級や最上級を用いた文を使えるように練習する。	後日ペーパーテスト 活動の観察
3	(1) 対話活動 (2) 接続詞 if を用いた文の構造を理解する。 ①接続詞 if を用いた文の構造を知る。 ②接続詞 if を用いた文を使えるように練習する。 (3) 接続詞 because を用いた文の構造を理解する。 ①接続詞 because を用いた文の構造を知る。 ②接続詞 because を用いた文を使えるように練習する。	後日ペーパーテスト 活動の観察
4 本時	比較表現や接続詞などの既習表現を用いて、自分の意見や考えを伝えたり、相手の質問や意見に対応したりして、対話を継続・発展させる。	活動の観察 後日表現テスト
5	(1) 対話活動 (2) Lesson 8 A の音読、単語練習、文法問題に取り組む。	活動の観察
6	(1) 対話活動 (2) Lesson 8 B の音読、単語練習、文法問題に取り組む。	活動の観察
7	(1) 対話活動 (2) Lesson 8 C の音読、単語練習、文法問題に取り組む。	活動の観察
8	(1) 対話活動 (2) Lesson 8 単元のまとめをする。	活動の観察

## 6 本時の学習

### (1) 本時の目標 (評価規準)

コミュニケーションへの関心・意欲 ・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>相づちをうったりメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。&lt;L&gt;</li> <li>間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。&lt;S&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較表現や接続詞を用いて自分の意見や考えを伝えたり、相手の質問や意見に適切に応答したりできる。&lt;S&gt;</li> </ul>		

### (2) 展開

過程	学習活動	学習内容	指導上の留意点 ◆評価
導入	1 挨拶 (1分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で挨拶する。</li> </ul>
	2 TOSS 英会話① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のねらいを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     今まで習った英語を使って、友達と会話しよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習ダイアログを復習する。                             <ol style="list-style-type: none"> <li>教師と生徒で会話練習をする。</li> <li>ペアで会話練習をする。</li> <li>アクティビティをする。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                                 [例]                                  Q: Which is more interesting, Hokkaido or Okinawa?                                  A: Hokkaido is more interesting than Okinawa.                                  Q: What can we see?                                  A: We can see Yukimatsuri.                                  Q: What can we eat?                                  A: We can eat ramen, kani and jingiskan.                                  Q: What can we buy?                                  A: We can buy Yubarimelon.                                  Q: Are there any interesting places?                                  A: Yes, there are.                                  Q: Where?                                  A: Asahiyama Zoo.                             </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい雰囲気を作る。</li> <li>電子黒板で画面を見せながら、会話をする。</li> <li>文字を見せない。</li> <li>間を空けない。</li> <li>リズムとテンポよく進める。</li> <li>生徒の理解度に応じて練習回数を調整する。</li> </ul> <p>◆意欲的に取り組んでいるか。 (観察)</p>
展開	3 TOSS 英会話② (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出のダイアログを導入する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     [話題]                      もし 10 日間休みがあったら、東日本と西日本のどちらに行きたいか。                 </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>対話を聞く。</li> <li>答え方を練習する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板で画像を見せながら、対話が行われる状況と対話の内容を知らせる。</li> <li>同時にお手本となる対話を教師が口頭で行う。</li> <li>最初は文字を見せない。</li> <li>苦手な生徒については、ペア活動</li> </ul>

		<p>(3) 尋ね方を練習する。  (4) ペアで会話練習する。  (5) アクティビティを行う。  (6) 発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[例]  Q: If you have 10 days holidays, which do you want to go to eastern Japan or western Japan?  A: I want to go to western Japan.  Q: Why do you think so?  A: Western Japan is more interesting than eastern Japan.  Q: What can we see?  A: We can see Kinkakuji in Kyoto.  Q: What can we eat?  A: We can eat takoyaki in Osaka.  Q: What can we buy?  A: We can buy Yubarimelon.  Q: Is there any interesting places?  A: Yes, there are.  Q: Where?  A: Universal Studio Japan.  Q: What can we do there?  A: We can enjoy exciting attractions.</p> </div>	<p>で全体を動かしている間に、教師が近くに行き、リピートさせる。  ・複数のダイアログを組み合わせ、(1)~(6)を繰り返すことで、長いやり取りができるように工夫していく。</p> <p>◆意欲的に取り組んでいるか。(観察)  ◆適切に応答できているか。(観察)</p>
	<p>4 TOSS  英会話③  (13分)</p>	<p>・本日の話題についての自分の考えを、理由を3つ挙げ、根拠を持って発表する。  (1) モデルを見せる。  (2) 1人で練習する。  (3) ペアで練習する。  (4) 発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[例]  I want to go to western Japan because western Japan is more interesting than eastern Japan.  First, we can see Kinkakuji in Kyoto. Kinkakuji is gold. It is the most beautiful temple in Japan.  Second, we can eat delicious takoyaki in Osaka. Takoyaki is the most popular food.  Third, in Universal Studio Japan, we can enjoy exciting attractions.  Therefore, I want to go to western Japan.</p> </div>	<p>・対話練習の考えの部分を述べることで報告に繋がることを視覚的に理解させる。</p> <p>◆意欲的に取り組んでいるか。(観察)</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 振り返り  6 挨拶  (1分)</p>	<p>・本時の活動の振り返りをする。  ・挨拶</p>	<p>・よかった点、頑張っていた点を伝え、今後の英語学習に対して自信をもたせる。</p>

## 7 参考文献

- (1) 『TOSS 英会話指導はなぜ伝統的英語教育から離れたか』 向山浩子  
(東京教育技術研究所)
- (2) 『教室に魔法をかける！英語ディベートの指導法—英語アクティブラーニング』  
加藤心 (学芸みらい社)
- (3) 加藤心氏授業資料、授業コンテンツ